

平成 26 年度事業報告

社会福祉法人 足羽福祉会

平成 26 年度は、国で社会福祉法人のあり方をめぐって、さまざまな批判的議論が交わされる一方、現場では福祉人材の確保が、ますます困難になってきているという厳しい状況の中で法人経営を強いられました。また保育、障がい児者支援、高齢者介護それぞれの分野で、制度がめまぐるしく変更されることでの対応に追われる現状もあります。しかし、こうした現状分析を事前に行い、対策として平成 25 年度に新中期事業計画(2014～2016 年)を作成しており、その初年度として 5 つの柱(サービスの質向上、地域貢献、人材の確保・育成・定着、財務基盤の安定、実施プロセス)に基づいて、事業計画の達成を目指し、職員一丸となって取り組みました。

1. サービスの質向上「満足から感動へ」

- (1) **人権尊重のサービス**…各拠点が人権尊重の取組みを明文化(保育園;職員研修、障がい福祉グループ;活動プログラム充実、虐待防止委員会の開催、利用者様の声を反映させる自治会開催、医療体制の強化、サービス等利用計画の充実等、介護グループ;基本介護、居住環境清掃の徹底、ケアプランの内容充実等)し、本人中心の支援計画に基づくサービス提供を行いました。
- (2) **待遇推進**…各拠点が待遇トレーナーや待遇委員会を中心に「気配り、目配り、心配り」の徹底に取り組みましたが、第三者によるモニタリングを受けた結果、全体的には徹底されていないとの指摘を受けました。数年間で職員が大幅に増えている中、取組みが形骸化しないよう各職場で十分に教育していくべき課題が明確になりました。
- (3) **業務の標準化**…各拠点が、業務マニュアルの整備・見直しを進め、業務の標準化を図りました。障がい福祉グループでは、個別支援記録システムの活用により、個別の記録のみならず、事故報告書や会議録、事務連絡の方法なども標準化が図られ、県の実地指導監査でも評価を受けました。
- (4) **福祉サービス第三者評価受審**…足羽東保育園が 3 回目の福祉サービス第三者評価を受審(制度開設以降、継続的に 3 回目の受審は県内初)し、高い評価を受けました。
- (5) **法人単位でのリスクマネジメント**…防災委員会(3 回と総合防災訓練 1 回)、感染症対策委員会(2 回)、苦情解決第三者委員会(1 回)をそれぞれ開催しました。各拠点でのさまざまなリスクマネジメントの取組み(上記の他、事故・ヒヤリハット報告、衛生管理委員会、緊急連絡体制等)をどのように法人単位で活かし、かつ効率化していくかが依然課題として残っています。

2. 地域貢献「共生社会を目指す足羽福祉会」

- (1) **地域に出向く**…各拠点が積極的に地域行事(清掃活動、防災避難訓練、夏祭り、運動会などのイベント等)に参加し、交流を深めました。また地域の小中学

校で福祉教育にも取り組みました（足羽更生園 2 回、愛全園 1 回）。介護グループで行っている地域支援事業では、啓蒙、円山、酒生地区の各戸訪問 2,370 件に加え、自治会型デイサービスへの協力（啓蒙、円山、岡保、酒生、日の出）や地域行事への協力を積極的に行いました。

(2) **地域を招く**・・・拠点単位で積極的にボランティア受入れ（計 731 人、64 団体）、実習生受入れ（計 245 人）、見学、地域の方の受入れ（計 500 名超）等を行いながら、各拠点の持つ人的・物的資源を地域に還元する取り組みを行いました。

(3) **地域ニーズに応える**

① 第 3 回足羽川ふれあいマラソン・・・法人の公益事業(ボランティア育成事業)として第 3 回目の開催となった足羽川ふれあいマラソンでは、エントリー総数 2,673 名、当日完走者総数 2,412 名と過去最高のランナーの皆さんにご参加いただき、ボランティア 350 名の運営で、事故なく成功裏に終えることができました。

② 放課後学童クラブ・・・美山、羽生地区における放課後学童クラブのニーズ把握より福井市と協議を進め、準備を行っていましたが、啓明地区学童クラブの実施団体が撤退したことも含め、学校、地域、行政との協議を重ねながら、平成 27 年度より羽生小、啓明小双方の児童を啓明学童クラブで受け入れる体制を整えました。また足羽東保育園で自主的に上文殊地区の学齢児の放課後クラブを行っていますが、登録が 6 名と年々増加しています。

3. 人材の確保・育成・定着「ここで働くのが一番と思える職場に」

(1) **職員の確保策**・・・全国的に福祉人材の確保が困難な状況の中、これまでとっていた一括採用から職種別（子ども、障がい、介護）採用に変更し、ホームページの活用や関係機関への精力的アピールを通して、求職者の動機づけを高める採用活動を行いました。また派遣職員から正規職員への登用も積極的に行うなどし、44 名の中途採用、23 名の新規採用の確保を達成しました。

(2) **中堅職員の提案による企画の実施**・・・平成 25 年度に中堅職員を対象に行った企画力研修の成果を、各拠点の事業計画に掲げ、職員主体で実践する取り組みは、拠点によって企画内容や結果にばらつきが見られましたが、中堅職員のやる気の向上につながりました。

(3) **人事管理制度の定着・推進**・・・近年の職員増や事業拡張に伴い、職員育成・評価者となる職員も増えていることから、監督職研修として評価者研修を再度行いました。しかし行動基準評価、チャレンジ評価の見直しについては行うことができませんでした。また法人人材育成指針の見直しを進め、法人職員が目指すべき「人材」像について明確にしました。

(4) **成長意欲を促す研修の設定**・・・各拠点とも現場業務に即した専門研修に、計画的に職員派遣を行い、職員の専門性向上に取り組みました。6 回目となったサービス実践報告会では、130 名以上の聴講者のもと、10 の実践発表を行いました。会場からも多くの質問、意見が出され、また部門ごとの外部コメントターの講評を受けるなど、より充実した意見発表の場となりました。法人内の人事交流事業は、正規職員数の約 1 割に当たる 28 名で実施しました。

(5) **職場風土改革**・・・職員が安心して働き続けられるための諸制度の活用において、介

護休暇1名、育児休暇12名、育児短時間勤務11名、子の看護休暇2名の取得実績となり、法人内託児所「ひまわり」でも24名の登録、利用を受け、職員の職場定着がより進んだ結果となりました。連続休暇の取得については、通所系の事業所では取得が進みましたが、居住、入所系事業所では勤務体系や人員体制の不足感があり、十分に進まない結果となったため、夜勤手当の改善を図る等の対策を講じました。また各拠点でも「ノー残業デイ」を決めて実施するなど、工夫して職場風土改革に取り組みました。

- (6) **業務改善**・・・障がい福祉グループ全体で、足羽更生園主催「トヨタ式片付け術」の研修に参加し、各職場の整理整頓の具体的取組みを行いました。整理整頓が定着した職場では、職員の意識向上や消耗品のコスト削減にもつながるなど、研修効果が如実に現れています。
- (7) **障害者雇用の法定雇用達成**・・・障害者雇用は新規採用1名に留まりました。雇用率は障害判定の変更（重度化）により6.5名となりましたが、法定雇用率の7名に少し及びませんでした。雇用管理の法人側と就労支援を行うあすわ就労支援センターとの連携が一層重要になっています。

4. 財務基盤の安定「スケールメリットを活かした財務管理」

- (1) **月次決算の徹底**・・・月次決算処理の流れが標準化されたことで、翌月第3決裁で締めて、翌々月第1決裁後に月次決算報告を受ける流れが定例化され、各拠点の経営状況や法人全体の状況を把握できるようになりました。
- (2) **存続と発展のための収益安定化**・・・各拠点において、収支の要因を適正に把握することで、事業実態に応じた対策を講じました。中期計画に基づき、施設整備など目的性をもった積立金を計上し、金融機関等からの短期、長期の借入金にも法人のスケールメリットを活かし、拠点間の繰入金で調整しながら、計画的な返済を行いました。詳細は決算報告になりますが、全体として事業拡張による増収、増益の結果となりました。
- (3) **会計スキルの向上**・・・法人本部事務局と各拠点事務員の連携により、財務処理の適正化、標準化が進みました。

5. 実施プロセス「一丸となつての事業展開」

- (1) **ガバナンス体制の強化**・・・社会福祉法人のあり方をめぐる諸議論に注視し、理事会や法人代表者会議等で現状認識を共有しながら対応について検討しました。定款等の変更については、平成27年度に進められる社会福祉法改正の内容を踏まえ、対応することとしました。また情報公開については、経営協のホームページ活用も含め、積極的に行い、透明性かつ公正な法人経営の状態を公表しています。
- (2) **制度変革に適切に対応した事業展開**
 - ① 足羽東保育園・・・利用希望者の増加に伴い定員増としながら、平成27年度からの「幼保連携型認定こども園」移行に向けた準備に取り組みました。
 - ② あすわ就労支援センター・・・発達障がい者のための就労支援事業所パステルにおいて「就労継続支援B型事業」を設置しました。
 - ③ あすわ地域生活支援センター・・・重度障がいのある男性用のグループホーム「こもれば」を開設しました。遠方にあった女性用グループホーム「つく

- しの家」を移転し「ひだまり」と改称しました。
- ④ あすわ児童発達支援センター・・・「子ども発達支援センターフレンズあすわ」において地域の障がい児を支える「保育所等訪問事業」「障害児相談支援事業」を設置しました。
 - ⑤ グループホーム美山・・・平成 26 年度からの着工工事が 7 月に終了し「小規模多機能型居宅介護事業」、「認知症対応型共同生活介護事業」を開設しました。
- (3) 長期的な視野に立っての施設整備・・・職員増加に伴う駐車場不足に対応し、7 月に新たな駐車場 (80 台分) を足羽利生苑前に設置しました。

6. 職員配置実績

職員数	平均年齢	平均勤続年数
466	42.0	7.1

(平成 27 年 4 月 1 日現在)